

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成21年10月23日（金）
児 童 男子8名 女子9名 計17名
授業者 黄川田 成子

1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう（光村図書2年上）

2 教材名 「サンゴの海の生きものたち」（本川 達雄文）

3 単元について

（1）教材について

第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。これを受けて、本単元では「海の生き物たちがどのように関わっているかを読み取り、共生の仕組みの不思議に興味をもつ。」を主目標にしている。また、本教材で身に付けたい読む力は、「サンゴの海の生きものたちが互いに役だっていることを、事柄の順序を考えながら読む。」である。

本教材「サンゴの海の生きものたち」は、サンゴ礁にすむ生き物たちの共生について述べている説明的文章である。本教材で扱われている生き物たちは、児童にとって日頃なじみ深い生き物とは言えないが、水族館や図鑑、アニメ映画などで見たことのある児童は多く、親しみをもって教材を読み進めることができる。その中で、予想外の新しい発見をすることになり、説明文を読む喜びを実感できると思われる。また、教材文とともに、鮮明な写真が使用されているのも、書かれている情報を補い、学習に大いに役立つ。1学期に学習した「スイミー」で海の生き物に興味をもち始めた2年生にとって、楽しみながら読むことができる教材である。

本教材は、これまで読んできた説明文に比べ、説明がやや複雑になっている。登場する生き物の数が多く、生き物相互の関係も入り組んでいる。そこで、文章に出てくる生き物のうちで、何と何が主要なものなのかを見分けさせることが大切である。また、本教材は「共生」という、内容的にやや難解な要素を含んでいるが、その理解を容易にするために、「初め・中・終わり」という文章構成をつかませ、「初め」の「たがいに、やくに立つようにかかわり合って、くらしている」という記述に着目させることにより、共生の関係性について理解させることができる。

（2）児童について

児童は、1学期に「たんぼぼのちえ」で、段落ごとに時間の経過が分かる言葉に着目しながら、たんぼぼの様子とその理由を読み取る学習をした。日頃見慣れているたんぼぼが、実は子孫を残すために、四つの知恵を働かせていたことを知り、新鮮な驚きを覚えていた。

児童の中には、「読むこと」への抵抗を感じている子どもが数名いるが、全体的には意欲的に取り組んでいる。一人学びでは、教材文にサイドラインをひいたり、ワークシートに抜き書きしたりする活動を行っている。しかし、文章の理解力は個人差が大きいので、叙述に即して正確に読めるよう、文章の中の言葉を確認しながら読みを深めていく必要がある。学び合いでは、発言する児童にやや偏りが見られるものの、友達の考えと自分の考えをくらべて、付け足したり、他の意見を出したりする児童が増えてきている。また、ペア学習により、友達の意見を聞いて自分の考えを広げたり、自信を持って発表したりできるようになってきている。

（3）指導にあたって

導入時に「海の生きもの図かん」を作ることを知らせ、意欲をもって学習に臨めるようにしたい。児童が、サンゴの海の生き物たちの美しさや不思議さに気付きながら、教材文を楽しんで読めるように、写真を活用しながらサンゴ礁の世界を想像させるようにしたい。

1 単位時間の授業では、音読を取り入れるとともに、文末表現や言葉の意味を大切にしながら、互いの生き物の関わり方を読み取らせていきたい。一人学びでは、課題の解決に向けて教科書にサイドラインを引かせる。学び合いでは、一人学びの内容をもとに、学級全体やペア学習によって、互いの考えをよく聞き合い、比べたり、付け足しをしたりして話し合うことにより、理解を深めたい。

4 指導目標

(1) 関心・意欲・態度

○海の生きものたちのくらしに興味をもち、楽しんで読もうとする。

○ほかの生きものについて興味をもち、進んで読み物を読む。

(2) 読むこと・書くこと

◎「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読む。
(読イ)

○語や文のまとまりや内容、言葉の響きなどについて考えながら声に出して読む。(読エ)

○図書館などの本を読んで、「海の生きもの図鑑」を作る。(書イ)

(3) 言語事項

○片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使う。(イ【ア】)

5 学習指導計画（1 2 時間扱い） 本時 7 時間

段階	学 習 活 動	評 価 規 準		
		関心・意欲・態度	◎読むこと ○書くこと	言語事項
第一次 つかむ 3 時間	1. 写真を見ながら、教師の範読を聞き、感想を書く。	・サンゴの海の生きものたちに興味をもち、進んで感想を書こうとしている。	○初めて知ったことや、驚いたことを書き出している。	
	2. 新出漢字の学習と語句の確認をする。			・新出漢字を正しく書き、語句の意味をとらえている。
	3. 感想をもとに話し合い、学習計画を立てる。「海の生き物図鑑」を作ることを知る。	・単元の学習活動の見通しをとらえようとしている。	◎文章の大まかな構成を理解している。	
第二次 読	4. ①②段落を読み、問いかけの文を読み取る。	・問いかけの文から生きものの関わり合いに興味をもって読もうとしている。	◎文末表現から問いかけの文をとらえている。	

み 取 る 4 時 間	5. ③④段落を読み、イソギンチャクとクマノミの体の仕組みについて読み取る。	・イソギンチャクとクマノミの体の仕組みについて興味をもち、読み取ろうとしている。	◎イソギンチャクとクマノミの体の仕組みについて、読み取っている。	・複合語「細長い」、理由を表す文末表現「～のです。」、接続語「でも」「だから」の意味や役割をとらえている。
	6. ⑤⑥段落を読み、イソギンチャクとクマノミの関わり合いについて読み取る。	・イソギンチャクとクマノミの関わり合いについて興味をもち、読み取ろうとしている。	◎イソギンチャクとクマノミの関わり合いについて読み取っている。	・接続語「だから」「こうして」の役割をとらえている。
	7. ⑦～⑨段落を読み、ホンソメワケベラと大きな魚との関わり合いについて読み取る。 (本時)	・ホンソメワケベラと大きな魚との関わり合いについて興味をもち、読み取ろうとしている。	◎ホンソメワケベラと大きな魚との関わり合いについて読み取っている。	・理由を表す文末表現「～からです。」、接続語「でも」の役割をとらえている。
	8. ⑩段落を読み、二つの関わり合いについてまとめ、不思議さ、おもしろさを書いて発表する。		○自分がおもしろいと思ったことやなるほどと思ったことについて書いている。	・接続語「このように」の役割をとらえている。
第 三 次	9. 「海の生きもの」の本のブックトークを聞く。	・海の生きものに興味をもちながら、ブックトークを聞いている。		
あ ら わ す	10. 海の生きものの本を読む。	・海の生きもの本を進んで読もうとしている。	◎まとめるときに分かりやすいように、付箋を貼ったり、メモをとったりしながら読んでいる。	
4 時 間	11. 読み取ったことを文と絵にまとめ、「生きものカード」に書く。	・工夫して文や絵にまとめようとしている。	○伝えたい事柄を分かりやすくまとめている。	・片仮名の表記に気をつけながら、正しく書いている。
	12. グループで読み合い、友達の文章のよさを見つける。	・友達の文章のよさを見つけようとしている。		

6 本時の指導

(1) ねらい

- ・ホンソメワケベラと大きな魚との関わり合いについて読み取ることができる。

〈具体の評価規準〉

	おおむね達成	支援の手立て
具体の評価規準と支援の手立て	大きな魚とホンソメワケベラは、互いに役に立つように	・一人学びでは、写真を手がかりにしたり、文末表現に着目させたりして、読み取らせる。

	関わり合っていることを読み取っている。	・ペア学習では、話し合いの苦手な児童の感想を引き出すように支援する。
--	---------------------	------------------------------------

(2) 本時の指導にあたって

本時の内容は、クマノミとイソギンチャクとの関わり合い方と違って、文章中に「守りあっている」のような関係を表す言葉は見られない。しかし、クマノミとイソギンチャクの学習を生かして、どうしていっしょにいるのか、自分にとって相手のいいところはどんなところなのかを考えさせることで、関わり合い方に気づかせていきたい。

一人学びでは、お互いにいっしょにいていいことを見つけさせ、教科書にサイドラインを引かせる。自力で一人学びをすることが困難な児童に対しては、個別に支援を行いたい。学び合いでは、一人学びした内容から、さらに想像をふくらませてペア学習やクラス学習で話し合わせ、読みを深めたい。

(3) 展開

段階	学 習 活 動		予想される児童の反応	指導上の留意点
	学 習 の 流 れ	発 問 等		
つかむ 5分	1. 前時の学習を想起する。	○クマノミとイソギンチャクは、互いにどんな関わり合い方をしていたか確かめましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・守りあっている。 ・大きな魚やイソギンチャクを食べる魚から、お互いに守ってもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表をもとに想起させる。 ・イソギンチャクやクマノミのように、お互いに役に立っていることを読み取っていくことを確認する。
	2. 学習課題を把握し、見通しを持つ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなかかわり合いをしているのだろう。</p> </div>		
ふかめる 35分	3. 課題を解決する。 (1) 学習場面を音読する。 (2) ホンソメワケベラと大きな魚の体のつくりを読み取る。 (3) 大きな魚にとってホンソメワケベラといっしょにいていいところを読み取り、話し合う。 【一人学び】	○課題に気をつけながら読みましょう。 ○ホンソメワケベラは、どんな体をしていますか。 ○大きな魚は、ホンソメワケベラといっしょにいてどんないいことがあるのでしょうか。	《一斉読み》 <ul style="list-style-type: none"> ・明るい青色の体。 ・頭からしっぽにかけて黒いすじが一本ある。 ・体の長さは、12センチメートルほど。 <ul style="list-style-type: none"> ・体や口の中についた虫を、ホンソメワケベラがとって、きれいにそうじしてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読むときのポイントを教師から提示する。 ・大きな魚については特に説明されていないが、ホンソメワケベラの体より大きいことを確認する。 ・「でも」に着目させる。 ・教科書にサイドラインを引かせる。 ・机間巡視を行い、つまづいている児童へ支援する。

	<p>【学び合い：ペア】 【学び合い：クラス】</p> <p>(4) ホンソメワケベラにとって、大きな魚といっしょにいるといいところを読み取り、話し合う。 【一人学び】 【学び合い：ペア】 【学び合い：クラス】</p> <p>(5) お互いに役立っている点を話し合う。 【学び合い：ペア】 【学び合い：クラス】</p>	<p>○ホンソメワケベラは、大きな魚といっしょにいるとどんないいことがあるのでしょうか。</p> <p>○どんなところが互いに役立っているのか話し合みましょう。</p>	<p>・そうじをしてとった虫が、食べ物になる。</p>	<p>・「でも、ただ」の後の文に着目させて、関わり合いを読み取らせる。</p>
<p>ま と め る 5 分</p>	<p>4. 学習のまとめをする。 (1) 課題のまとめをする。</p> <p>大きな魚はそうじをもらい、ホンソメワケベラは食べ物もらい、たがいにやくに立つようにかかわり合っている。</p> <p>(2) 学習の振り返りをする。 【学び合い：ペア】 【学び合い：クラス】</p> <p>8. 次時の予告をする。</p>	<p>○ホンソメワケベラと大きな魚の関わり合いについてまとめましょう。</p> <p>○今日の学習で分かったことや感想を書いて、隣の人と話し合みましょう。 ○発表しましょう。</p> <p>○次は、イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを勉強した感想を書きます。</p>	<p>・大きな魚はそうじをしてもらおう。 ・ホンソメワケベラは食べ物もらおう。 ・おたがいにやくに立っている。</p> <p>・大きさは全然違うけれどお互いに役に立っていてすごいな。 ・大きな魚は掃除をしてもらって気持ちよさそうだな。</p>	<p>・板書や児童の発言をもとにまとめる。</p> <p>・学びの成果を交流し、次時の学習へ意欲を持たせる。</p> <p>・学習計画表をもとに、次時は、二つの関わり合いを読んでみての感想を書いたり、発表したりすることを知らせる。</p>

(4) 板書計画

サンゴの海の生きものたち

もとかわ たつお

ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなにかわり合いをしているのだろう。

ホンソメワケベラの体

- ・ 明るい青色の体。
- ・ 頭からしっぽにかけて、黒いすじが一本ある。
- ・ 体の長さは十二センチメートルほど

ホンソメワケベラと大きな魚の写真

大きな魚

- ・ 体や口の中の虫をそうじしてもらう。

ホンソメワケベラ

- ・ そうじをしてとった虫が食べ物になる。

ホンソメワケベラと大きな魚の写真

大きな魚は（そうじ）をしてもらい、ホンソメワケベラは（食べもの）をもらい、（たがいにやくに立つ）ようにかかわり合っている。